

岡山県の土地改良



新年のご挨拶

岡山県土地改良事業団体連合会
会長 石井 正弘

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様方には、平素から本会の運営並びに農業農村整備事業の推進にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げますとともに、皆様方が各地域で取り組まれている様々な活動に対し深く敬意を表する次第であります。

さて、新型コロナウイルスの影響により、経済・社会活動が大きな影響を受けて久しいところでありますが、これに加え、世界各地で発生している異常気象による大規模災害やロシアによるウクライナ侵攻により食料の安定供給が危惧され、さらには、肥料・飼料の価格上昇や電気料金高騰など農業生産を取り巻く環境が脅かされる事態となっております。

こうした中、国は、先進国の中で最低といわれる食料自給率の向上が喫緊の課題となっていることに鑑み、食料・農業・農村基本法の総合的な検証と見直しに着手し、数十年先を見据えた国内農業生産の強化を図ることとしています。

土地改良分野では、農地や農業用水路など農業生産基盤の整備を契機とした高収益作物の導入や担い手への農地の集積・集約化などにより、儲かる農業の実現を図る必要があります。また、老朽化した土地改良施設の適時適切な補修・更新に加え、ため池や低平地等の防災減災対策を進め、安全・安心な暮らしの実現に向けて取り組む必要があります。さらに、電気料金の急激な上昇が土地改良区の運営に大きな影響を及ぼしており、施設の適正な維持管理に必要な支援対策を講ずるなど、土地改良区の運営基盤の強化が急務であります。

これらに必要な令和5年度農業農村整備事業関係当初予算は、4,457億円が閣議決定され、これに4年度補正予算を加えると、6,134億円を確保することが出来ました。これもひとえに、皆様方のご理解ご協力と熱心な要望活動の成果であると感謝申し上げます。

こうした状況を踏まえ、創立から65年目を迎えた本会では、今後とも会員の皆様方の付託に応えるべく一層努力してまいりますので、引き続きのご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

結びに、今年一年の皆様方のご健勝とご多幸をお祈りし新年のご挨拶といたします。



新年にあたって

全国土地改良事業団体連合会
会長 二階 俊博

令和5年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年の御祝詞を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、様々な感染対策を講じた上で、新型コロナウイルスへの対応と社会経済活動の両立を図るウイズコロナの方針が示されました。皆様におかれましては、「新しい生活様式」を日常生活に取り入れ、引き続き、感染拡大防止に十分ご留意いただきますようお願いいたします。

また、昨年は、ロシアによるウクライナ侵攻の影響もあり、一部の国では穀物の輸出規制が実施されるなど、食料流通の機能不全や食料価格の高騰など食料安全保障をめぐる負の影響が国際社会に生じました。

国内では、農業者の高齢化や減少により、農地や農業用水の管理に支障が生じているほか、燃料価格の上昇に伴う農事用電力料金の急激な高騰が土地改良区の運営を圧迫しています。

このような国内外の情勢にかかわらず、食料安全保障の観点から、日本の食料生産を支える農業生産基盤を維持し、国民の不安を解消していかなければなりません。

岸田内閣は、こうした状況を踏まえて「食料・農業・農村基本法」の見直しに着手しました。この検討の動きを注視しつつ、我々土地改良関係者は、農業・農村の喫緊の課題に積極的に取り組んでいく必要があります。

令和5年度予算につきましては、農業農村整備の着実な推進を求める全国の皆様からの熱意ある要請活動により、政府予算案において、4,457億円を確保することができました。この結果、令和4年度の第二次補正予算を含めると6,134億円となります。

また、令和4年度第二次補正予算において燃料価格の上昇に伴う土地改良区の電気代高騰分の7割を支援する仕組みが導入されました。

御尽力をいただいた当局をはじめ関係各位に心から御礼を申し上げます。

他方、第5次男女共同参画基本計画に続き土地改良長期計画においても、令和7年度までに土地改良区及び土地改良区連合の女性理事の割合を10%以上とすることが成果目標とされており、我々土地改良団体における喫緊の重要課題となっています。将来の組織体制の強化・発展のためにも女性参画を進めていかなければなりません。皆様の御理解と御協力を賜りたいと存じます。

さて、私は本会の会長に就任以来「闘う土地改良」を掲げ、組織一体となって闘ってまいりました。昨年

の参議院選挙においては、土地改良の代表として進藤金日子参議院議員が見事に当選を果たされました。宮崎雅夫参議院議員と共に「車の両輪」となって、全国を駆け回り、皆さんの声を聞き、土地改良予算の確保だけでなく、現場が直面している課題解決の処方箋を国の政策に反映させるよう奮闘しておられます。皆さんの声が国会に届くよう、二人の活動の支援をお願いいたします。

輝かしい年の初めに当たり、本年も皆様各々の地域において更に農業・農村が活力を得て、一層発展しますよう御期待申し上げますとともに、様々な不安が払拭され、本年が全国の皆様にとって良き年であり、日々健やかに過ごされますよう御祈念申し上げまして、私の新年の御挨拶といたします。



新年のご挨拶

全国水土里ネット会長会議顧問
参議院議員 進藤 金日子

新年、明けましておめでとうございます。岡山県土地改良事業団体連合会の会員各位及び関係の皆様には、旧年中、大変お世話になりました。お陰様で先般の参議院議員選挙で再選を果たすことができました。二期目においても、引き続き現場主義、地域主義に徹して政策実現に努めてまいる覚悟です。本年も何卒宜しくお願い致します。

懸案の土地改良予算については、昨年12月に成立した令和4年度補正予算で1,677億円（TPP等対策：760億円、国土強靱化5か年加速化対策：817億円、食料安全保障対策：100億円）が措置され、また、令和5年度当初予算政府原案は昨年度より4億円増加の4,457億円で、補正予算と合わせて6,134億円となりました。これらには農業水利施設の電気料金高騰対策も盛り込まれ、本年度と同様に地域の要望に応えられる所要の予算が確保できたものと考えています。

さて、昨年を振り返ると、新型コロナウイルス感染症が続く中、2月のロシアのウクライナへの侵略により、エネルギー価格の上昇、穀物価格や飼料価格の上昇、肥料価格の高騰、円安の急激な進行による物価の上昇等があり、これらは国民生活に大きな影響を与えています。政府は、エネルギー価格や電気料金、肥料価格等の高騰対策を講じてきたところですが、これらを含め物価高は本年も続くと思われます。引き続き、物価動向を注視しながら必要な対策を講じることが重要であり、私も各種対策の実現に貢献してまいる覚悟です。

昨年7月の再選後、全国各地で講演等を行ってまいりました。そこで感じたのは、経済安全保障と食料安全保障に対する国民の意識の高まりです。昨年後半の円安の進行も踏まえ、各種生産拠点の国内回帰をはじめ国内での強靱なサプライチェーン再構築の緊急性を改めて認識しております。

また、昨年6月の参議院決算委員会で、私は政治信条である「食料安全保障」について岸田総理に対し質問しました。総理からは「食料の安定供給の確保は国家の国民に対する最も基本的な責務の一つ。新しい資本主義のビジョンの下、食料安全保障を強化するべく政府一体となって取り組んでいきたい」との答弁を頂きました。

私は、「食料供給力」（国内生産力、輸入力、備蓄）の中で弱体化している国内生産体制の強化が喫緊の課題で、まさに「食料自給力」の強化が不可欠であると訴えています。その最も基礎的なものが「農地・水等の農業資源」であり、自給力の強化を図るには、農地と水の持つ機能を高める土地改良を中長期的な展望を持って推進していくことが重要です。このため、今後も予算を安定的に確保するとともに、貴重な予算を効率的、効果的に執行し、目に見える成果を出していく必要があります。

本年も土地改良推進に対する貴連合会及び会員、関係機関の皆様のご協力をお願い致しますとともに、皆様からのご指導とご鞭撻を心からお願い申し上げ、新年のご挨拶にさせていただきます。



新年のご挨拶

全国水土里ネット会長会議顧問
参議院議員 宮崎 雅夫

新年明けましておめでとうございます。岡山県土地改良事業団体連合会の会員各位ならびに関係の皆様へ謹んで初春のお慶びを申し上げます。

皆様方におかれましては、日頃より地域の重要な資源である水と土を守り、地域農業の発展や農山村の活性化に向け、農業農村整備事業の円滑な推進ならびに土地改良施設等の適切な管理や土地改良区の適正な運営にご尽力いただいておりますことに敬意を表しますとともに、旧年中は、私の活動に対し多大なるご支援とご指導を賜りましたことに衷心より感謝申し上げます。

さて、私も皆様方から多くのご支援をいただきながら、昨年8月まで農林水産大臣政務官を務めさせていただき、その間、皆様方から多くのご要望等をお受けしましたが、それぞれの地域の課題解決等に向け、進藤金日子議員や農水省の職員の皆さん等と共に一所懸命に対応させていただきました。これらご要請の事項を含め、昨年12月に成立した平成4年度第2次補正予算では、農林水産関係で総額8,206億円、このうち、農業農村整備事業関係については、1,677億円（食料安全保障強化対策100億円、総合的なTPP等関連対策760億円、防災・減災、国土強靱化817億円）が措置され、この中には、皆様方から強いご要望があった土地改良施設にかかる電力料金の高騰対策として、増嵩分の7割を支援する新たな制度も含まれています。また、令和5年度当初予算の概算決定額として、前年を上回る4,457億円が計上されており、合計額は6,134億円となりました。これから行われる国会での議論において、しっかりと確保できるよう一所懸命に努めてまいります。

さらに、昨今の国際情勢や長引くコロナ禍により、農業農村にも多くの影響が及んでいますが、とりわけ、カロリーベースで6割程度を輸入に頼る我が国の食料事情にあって、その安定供給を図る食料安全保障の確立に向けた取り組みが求められております。国内農産物の生産を支える農地や水利施設等の整備・維持という重要な役割を土地改良が担っており、農業従事者数の減少傾向にも対応するスマート農業を実現する土地改良の促進や農業農村関係人口の拡大などを含め、しっかりと推進していくことが重要です。

私も、卯年の今年は年男を迎えますので、「食・土地改良・農山漁村は未来への礎」を理念に初心に立ち返り、これまでも増して現場主義に徹し、現場や地域の課題をしっかりと伺いして皆様のお声を国政に届け、必要な予算の確保と現場の実情に即した制度の充実に向け、誠心誠意努力してまいります決意ですので、引き続きご指導とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、岡山県土地改良事業団体連合会ならびに会員、関係機関の益々のご発展と皆様方のご健勝を心より祈念申し上げ私の新年の挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願い申し上げます。



新年のごあいさつ ～儲かる産業としての農林水産業の確立を目指して～

岡山県農林水産部
部長 万代 洋士

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

皆様方には、平素から本県農林水産行政の推進につきまして、格別の御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

岡山県は温暖な気候、豊かな水を湛えた三大河川、北に爽やかな蒜山高原、南に広大な干拓地と風光明媚な瀬戸内海など、全国屈指の自然環境に恵まれており、そこで育まれる農林水産物もまた、全国に誇れるものであります。

さて、近年の本県農林水産業を取り巻く状況はコロナ禍に加え、米価下落や情勢等に伴う燃油・肥料・資材の高騰など厳しさを増しております。

このような中、県では県政推進の羅針盤である「第3次晴れの国おかやま生き生きプラン」や、本県農林水産行政の基本計画である「21 おかやま農林水産プラン」に基づき、県産農林水産物のブランド力強化や、担い手の確保・育成、市場ニーズに応えることのできる産地の育成や供給力の強化、そして、これらを支える生産基盤の整備を進めております。

中でも、高い競争力を誇る桃やぶどうを中心に、新規就農者の確保・育成、生産基盤の整備などを一体的に行うハイブリッド産地育成推進事業に農林水産部内の総力を挙げて取り組むなど、時代の変化にも対応できる農林水産業の振興を図っているところであります。

今後とも、マーケットの動向を踏まえたブランド化の推進や、先端技術の活用などによる生産性の向上などに注力するとともに、地域が描く将来の農業に最適となる生産基盤整備と、これらの生産基盤が将来にわたり適切に機能を発揮するよう保全対策を着実に進め、儲かる産業としての農林水産業の確立を目指してまいります。

また、豪雨や地震等の自然災害から地域を守るため、防災重点農業用ため池の改修や廃止、海岸保全施設の整備等の防災・減災対策を進めてまいります。

本年も関係団体の皆様方と連携し、本県農林水産業の一層の振興に取り組んでまいり所存でありますので、引き続きの御支援・御協力を賜りますよう、お願いいたしますとともに、皆様方の御健勝と御多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。





新年のごあいさつ

岡山県農林水産部
参与 細川 信佳

あけましておめでとうございます。

会員の皆様方には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、本県の農業農村整備事業の推進に当たりまして、格別の御支援と御協力を賜り、心からお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が未だ再拡大を繰り返していますが、日常は少しずつコロナ禍前と同様の風景を取り戻しつつあります。一方、世界はロシアによるウクライナ侵攻という新たな脅威に直面しており、燃料や原材料価格の高騰による物価上昇など、農業生産や生活にも影響が及んでいます。特に、食料や飼料の多くを輸入している我が国では、価格高騰や生産の不安定性が食料供給の大きなリスクとなることが、現実として認識されました。

こうした中、国は食料安全保障を強化するため、農政の憲法といわれる「食料・農業・農村基本法」の見直しに着手し、食料・農業・農村政策審議会でその方向性が議論されており、今秋にも大臣に答申される予定となっております。

県では、こうした国の動向を見守りつつ、「第3次晴れの国おかやま生き生きプラン」や「21 おかやま農林水産プラン」に基づき、“儲かる産業としての農林水産業の確立”を目指し、担い手への農地の集積・集約化や市場のニーズに応じた収益性の高い作物の導入が図られるよう、効果的・効率的な生産基盤の整備に取り組んでまいります。

また、去年は、愛知県の明治用水頭首工の漏水事故が大きなニュースとなりました。本県においても、基幹水利施設の約6割が標準耐用年数を超過する中、施設の機能が将来にわたり適切に維持・発揮できるよう、計画的な長寿命化対策に取り組んでいるところであり、引き続き、会員の皆様等の管理者と連携して、対策を進めてまいります。

さて、メジャーリーグで進化を続ける大谷翔平選手をはじめ、プロ野球で史上最年少の三冠王に輝いた村上宗隆選手、令和初の完全試合を達成した佐々木朗希投手など、昨今のプロスポーツは、若者の活躍に支えられているといっても過言ではありません。本県職員においても世代交代が進んでいるところであり、技術の確実な継承はもとより、農業農村整備におけるデジタル技術の活用など、人口減少社会を迎える新しい時代に対応していくためには、若い技術者の力が必要であり、彼らが活躍できる環境づくりにも努めてまいりたいと存じます。

本年も土地改良区や市町村の皆様方と連携をより深めながら、地域の描く農業の将来像が実現し、元気で活力ある農業・農村となるよう、全力を尽くしてまいりますので、会員の皆様の更なる御支援、御協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年が皆様にとりまして明るく幸多き年となりますよう御祈念申し上げ、新年の御挨拶とさせていただきます。



新年のごあいさつ

岡山県農林水産部
耕地課長 大賀 則男

あけましておめでとうございます。

会員の皆様方におかれましては、つつがなく新春を迎えられたこととお慶び申し上げますとともに、日頃から本県農業農村整備事業の推進に格別の御理解と御協力をいただいております。深く感謝申し上げます。

続くコロナ禍による閉そく感やロシアのウクライナ侵攻による世界の不安定化が懸念される中、年末に開催されたサッカーのワールドカップでは、日本代表チームが強豪国を破り、国内に大きな感動と勇気をもたらしました。選手個々の高い技術に加えて、最後まであきらめない姿勢や監督・選手のお互いを信じ合う力が勝利を手繰り寄せる鍵であったと考えております。逆境に立たされた中でも、確固とした戦略を持ち、組織として連動することで結果をもたらす、こうしたメソッドは、日本の農業・農村が抱える課題に向き合っていく上でも、必要なものと感じております。

さて、県では、「第3次晴れの国おかやま生き生きプラン」や「21 おかやま農林水産プラン」に基づき、「儲かる産業としての農林水産業の確立」を目指し、「産地」、「連携」、「最適」をキーワードに、計画的かつ効率的に事業を推進しています。

特に、本県が誇る桃やぶどうなどの産地の多くが、畑地かんがい施設の整備を契機に形成されており、その持続的発展には、施設の機能が将来にわたり適切に維持されることが不可欠であり、県では、計画的な長寿命化対策に取り組んでいるところです。さらに、農地中間管理機構関連農地整備事業等を活用し、水田を園地として再整備するなど、高品質な本県農産物に対する市場のニーズに応えるため、一層の供給力強化にも取り組んでまいります。

一方、県では、4千箇所を超える防災重点農業用ため池について、防災工事等の対策を重点的に進めているところであり、本年度から県営事業の県補助率を見直すなど、対策の加速化に向けた取組を行っています。また、県土連に設置している「岡山ため池保全管理サポートセンター」を活用しながら、引き続き、市町村と連携して対策を推進してまいります。

さらに、昨年は、電気料金の高騰に伴い、土地改良施設の維持管理においても負担が増加したため、県では、土地改良区が管理する農業水利施設の電気料金高騰に対する支援を行うこととしたところです。また、施設の省エネルギー化や地域の実情に応じた再編整備など、維持管理の負担軽減を図る取組についても進めてまいりますので、会員の皆様の更なる御支援、御協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年が皆様にとりまして幸多き発展の年となりますよう祈念申し上げ、新年の御挨拶とさせていただきます。



新年のごあいさつ

岡山県農林水産部
農村振興課長 片山 敦文

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様方には、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃より農業農村整備事業を通じて、本県の農業・農村の振興に、御理解と御協力を頂いておりますことに厚くお礼を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、ロシアのウクライナ侵攻による燃料や原材料の高騰などにより、私たちの生活は大きな影響を受けるとともに、輸入に依存した我が国の食料供給の構造的課題が露呈し、食料の安全保障が改めて注目されたところです。

こうした社会情勢の中、本県の農業や農村を取り巻く状況は、一部に田園回帰などの明るい動きがあるものの、依然として、農業者の高齢化による減少や肥料・燃油高騰等の影響による農業経営の圧迫などが続いています。このため、次代を担う力強い担い手の確保・育成や経営の効率化に向けた農地の集積・集約化のほか、地域の特色ある農業生産活動が継続できるよう、関係者や関係団体が一体となった取組を進める必要があります。

このため県では、県政推進の羅針盤である「第3次晴れの国おかやま生き生きプラン」や農林水産業の基本計画である「21 おかやま農林水産プラン」に基づき、本県の農林水産業が儲かる産業として確立するための各種施策の推進に取り組んでおります。

中でも、農地の集積・集約化については、引き続き、重点施策として位置付け、昨年5月の農地関連法改正を踏まえ、地域における農地の効率的利用や生産性の高い担い手の育成のため、農地中間管理事業を活用した取組等を進めることとしております。

さらに、中山間地域の農業・農村の活性化を図るため、荒廃農地の発生防止や多面的機能の維持・発揮に向けた日本型直接支払制度を推進するほか、新たに農村RMO形成に向けた取組を支援するとともに、農家民宿、直売所などの地域資源と食や観光資源等を結び付けた地域農業の魅力向上にも取り組むこととしております。

本年も引き続き会員の皆様と力を合わせ、粘り強く諸課題の解決に取り組んでまいりたいと考えておりますので、より一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様方の御健勝と御繁栄を祈念申し上げまして、新年の御挨拶とさせていただきます。



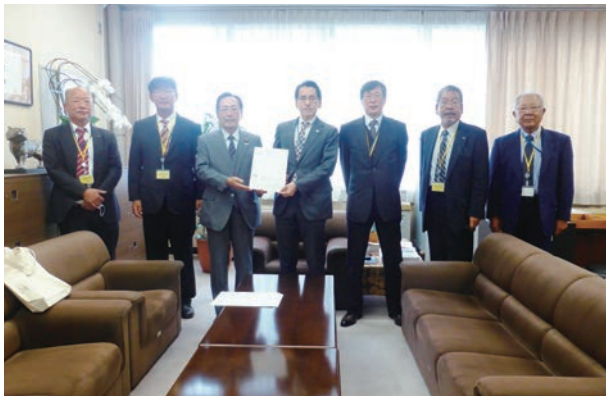
令和5年度農業農村整備事業関係予算確保に向けた要望・提案活動 —岡山県土地改良事業団体連合会・岡山県農業農村整備事業推進協議会合同—

令和4年11月1日～2日、岡山県土地改良事業団体連合会及び岡山県農業農村整備事業推進協議会は、財務省、農林水産省、自由民主党及び岡山県関係国会議員に対し、令和5年度農業農村整備事業関係予算確保に向けた要望・提案活動を行った。

県内の農業農村整備事業を計画的かつ安定的に推進するため、現場ニーズに応えられる規模の農

業農村整備事業関係予算の確保、ため池の防災減災対策の推進及び農事用電力料金の高騰対策の3項目について要望・提案を行った。

今回の活動には県内土地改良区から成本理事長（西大寺土地改良区）、佐藤理事長（灘崎土地改良区）、藤原理事長（高崎土地改良区）、片山理事長（児島湾七区土地改良区）の4氏が参加し、地域の実情を訴えるとともに、積極的な意見交換を行った。



青山農村振興局長【農林水産省】



安部農村振興局次長【農林水産省】



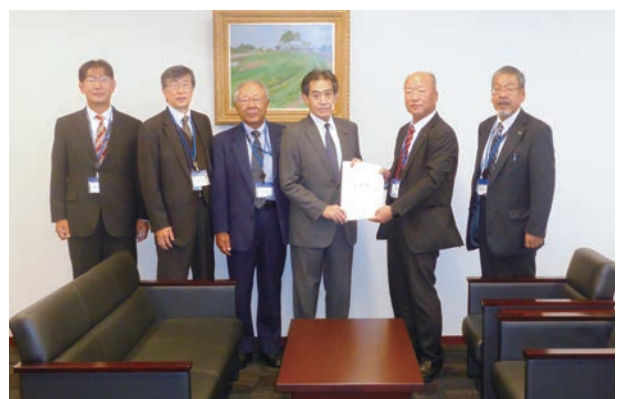
角田農林水産大臣政務官



川口主計局主計官【財務省】



二階国土強靱化推進本部長及び進藤参議院議員



逢沢衆議院議員

令和4年度農業農村整備事業地域推進会議を開催

11月7日～8日、岡山県土地改良事業団体連合会は、県下の土地改良関係者に農業・農村の振興に係る最新の情報を提供し、農業や地域振興の一層の推進を図ることを目的とした農業農村整備事業地域推進会議を県内3ヵ所で開催した。

会議には、県内の農業農村整備事業関係者、市町村職員、土地改良区の役職員等100名以上が参加した。

会議では、あべ衆議院議員から「農政の課題とこれからの進め方」についての講演や、中国四国農政局農村振興部中西設計課長から「農業農村整備をめぐる情勢」についての講演、岡山県からの情報提供などが行われた。



【備前会場】



【備中会場】



【美作会場】

令和4年度統合整備推進研修（会計研修）開催



【岡山会場】



【津山会場】

11月28日～29日、令和4年度から原則全ての土地改良区について貸借対照表の公表が義務化されることに伴い、土地改良区の会計複式化の定着を目的とした、令和4年度統合整備推進研修（会計研修）が全国水土里ネットの主催により県内2会場（岡山・津山）で開催され、両会場合わせて50名近くの土地改良区役職員、市職員が参加した。

研修では、全国水土里ネットから「財務諸表等の作成手続き」や、財務諸表等を活用した財務分析の方法などについて説明があった。参加者は、現在感じている疑問点や課題を解決しようと熱心に耳を傾けていた。

◇研修カリキュラム◇

演 題	講 師
財務諸表等の作成手続き（基礎編）	全国水土里ネット 支援部 野崎主任
財務諸表等の作成手続き（実践編）	
財務諸表等を活用した財務分析の方法	全国水土里ネット 支援部 市村部長
単式簿記方式を継続して 貸借対照表を作成する方法	

第44回全国土地改良大会沖縄大会開催 ～水土里の拓くみくる世を 鳴らしとうゆまし 守禮の邦から～

11月22日、第44回全国土地改良大会沖縄大会が沖縄市に昨年完成した沖縄アリーナで開催された。大会スローガンである『水土里の拓くみくる世を 鳴らしとうゆまし 守禮の邦から』の下、全国から約2,300名の土地改良関係者が参集し、岡山県からは29名が参加した。

古謝沖縄県土連会長の開会挨拶に始まり、主催者を代表し二階全土連会長の挨拶があった。その後、玉城沖縄県知事、知念沖縄市長の歓迎のことばに続いて、勝俣農林水産副大臣、西銘衆議院議員、進藤全国水土里ネット会長会議顧問、宮崎全国水土里ネット会長会議顧問が来賓祝辞を述べた。

土地改良事業功績者表彰では、農林水産大臣表彰6名、農村振興局長表彰16名、全土連会長表彰45名に表彰状と記念品が授与され、岡山県からは前玉野市長の黒田晋氏が農村振興局長表彰、吉備中央町長の山本雅則氏が全土連会長表彰を受賞した。

その後、安部農村振興局次長による基調講演に続き、農業生産法人(有)大嶺ファーム及び瀬名波土地改良区の優良事例紹介があった。

最後に沖縄県土地改良事業団体連合会職員2名による大会宣言が高らかに読み上げられ、次期開催県である福井県土地改良事業団体連合会へ大会旗が引き継がれて式典の幕を閉じた。



【開会挨拶】



【大会宣言】

大会宣言

ここ沖縄県は、我が国の西南端に位置し、東西1,000km、南北400kmの広大な海域を有しており、世界でも屈指の透明度を誇る海と亜熱帯の貴重な動植物を有する、自然豊かな地域です。

また、琉球王国の時代から広く海外と交流を重ねており、「万国津梁」の言葉のごとく、南海の勝地として大いに栄えてきました。今年は、沖縄が本土復帰50年にあたる年であります。

本土復帰に至るまでの土地改良事業は、殆ど手つかずの状態、農業は、沖縄特有の気象、地形、土壌のため、幾度となく干ばつによる甚大な被害に苦しめられてきました。

このため、我々水土里ネット関係者は、全国の皆様の支援も受けながら、我が国初の本格的な地下ダムの整備等による水源の確保や、農地開発・区画整理や返還された米軍用地を農地へ再生する整備等に、精力的に取り組んできました。

現在では、農業生産基盤整備が、沖縄の農業振興の大きな下支えとなっており、基幹作物のさとうきびの機械化、灌漑用水による野菜・熱帯果樹、花きなどの高収益性作物の栽培が可能となりました。現地視察では、国をはじめ、全国の水土里ネット関係者の皆様に、整備・維持された施設と営農状況をご覧になって頂きたいと思います。

しかしながら、沖縄も含め全国の農業と農村は、現在、過疎化、高齢化、担い手不足、荒廃農地の発生等の大きな課題に直面し自給率の低迷が続いています。近年、大規模地震や多発する未曾有の豪雨災害により、生命と財産を守るための農村地域の一層の国土強靱化も極めて重要となっています。

加えて、ここ数年では、新型コロナウイルスの感染拡大により需給体系が変化した市場への対応が求められています。また、今年に入ってから、主要な食料生産国であるウクライナでの戦争により、食料安定確保の重要性が一層高まっています。

このように農業・農村を取り巻く社会情勢が厳しく・激動的な中、国においては、「食料安全保障の強化と農林水産業の持続可能な成長の推進」と「防災・減災、国土強靱化の推進、東日本大震災からの復興」を骨太方針として定めています。

食料の安定供給や農業・農村の多面的機能を発揮させるためには、農地・農業用水等の地域資源を良好な状態で次世代に継承する必要があり、灌漑施設などを守る土地改良区の役割を国民に広く発信し、その重要性を共有することは大変意義深いものと思います。

本日、ここに集う私たちは、持続的な農業・農村を可能とするため「水(みず)」「土(つち)」「里(さと)」を守り、引き継いで行くことを、本土復帰50年を迎えた、ここ沖縄から全国に向けて、高らかに宣言します。

令和4年11月22日

沖縄県土地改良事業団体連合会
島袋朝気
知念智子

土地改良団体における男女共同参画推進研修会が開催

11月7日～8日、土地改良区における女性理事の登用が政府の成果目標になったことにより、なぜ女性理事の登用を進めるのか、どのように進めればよいかなどの情報共有を目的とした、土地改良団体における男女共同参画推進研修会（主催：全国土地改良事業団体連合会・岡山県土地改良区運営基盤強化協議会）が市町村職員、土地改良区理事長等を対象に県内3ヵ所で開催された。

研修会では、全国水土里ネットから土地改良団体における男女共同参画の意義、基本事項及び事例紹介についての講演、中国四国農政局から男女共同参画の実現に向けての講演などが行われた。

また講演後には、参加者から多くの質問や意見もあり、有意義な研修会になった。

◇研修カリキュラム◇

演 題	講 師
土地改良団体における共同参画の意義、基本事項及び事例紹介	全国水土里ネット 上席参与 小笠原善友
手引きの使い方	
男女共同参画の実現に向けて	中国四国農政局 土地改良管理課長 川嶋 等



小笠原上席参与



川嶋土地改良管理課長

4県水土里ネット女性の会による男女共同参画の推進に向けた意見交換会開催

12月6日、島根県松江市において、男女共同参画の推進に向けた意見交換会が、秋田県、島根県、鳥取県及び岡山県により開催され、水土里ネット女性の会役職員等約20名が参加した。現在、土地改良区の女性理事登用を2025年度までに、すべての改良区で女性理事の登用し、女性理事の占める割合を10%以上とする成果目標が設けられ、関係機関により女性理事登用に向けた動きが加速しているが、実際にはなかなか進まない状況となっている。そんな中、今後に向けたネットワークづくりを目的とし、女性の会の活動状況や男女共同参画への対応状況について意見交換会を行った。

しまね水土里女性の会永井会長から歓迎のことばに続き、あきた水土里ネット女性の会根本会長から挨拶があった。

その後、中国四国農政局柵木次長から「土地改良区における女性参画への期待」と題し、世界の中での男女共同参画の日本の現状等、今後の土地改良区の女性活躍を推進するために参考となる話があった。続いて、揖屋干拓土地改良区及びひかわ水土里女性の会から土地改良区における女性の活躍推進に向けた取り組みの事例が紹介された。

最後に、出席者が3つの班に分かれて「土地改良区分野の女性活躍を阻む要因とその解決策」、「土地改良区分野の女性活躍に女性会の果たす役割」についてグループ討議が行われた。グループ討議では、多くの意見が出て活発な意見交換の場となった。



児島湖流域清掃大作戦に参加

11月6日、児島湖流域環境保全対策推進協議会の主催で、児島湖及び流域河川の5カ所において、一斉清掃が行われた。地域住民をはじめ各種団体から約1,200名が参加した。

会場の一つである締切堤防には当会の11名を含む約500名が参加し、湖岸への漂着ゴミや不法投棄されたゴミを回収した。

清掃終了後は児島湖産テナガエビの唐揚げが振舞われ、水質保全の活動に花を咲かせた。

当会では、引き続き児島湖流域の環境保全活動に積極的に参加したいと考えている。



小阪部川ダム施設保全活動に参加

11月10日、高梁川用土地改良区が主催する小阪部川ダム施設保全活動が開催され、当会から2名が参加した。

小阪部川ダムは、岡山県南の岡山市、倉敷市、総社市、早島町の水田に農業用水を補給する重要な役割があり、その他にも水道水や水力発電としても活用されている。また、ダム湖周辺は岡山県の「高梁川上流県立自然公園」



に指定されており、美しい景観の保全保護が推進されている。

ボランティア組織や地域住民など約60名が参加し、約2時間をかけてダム湖周辺のごみ収集や隣接した公園周りの草刈りを行った。



第65回学校農業クラブ岡山県大会



11月25日、岡山県立興陽高等学校において第65回学校農業クラブ岡山県大会が開催されました。

この大会は、関係高校8校で構成する「岡山県学校農業クラブ」の生徒が、日頃の活動の成果を発表し、クラブ員相互の研修と交流を深めることによって、将来の農業の担い手を育成するとともに、産業人としての資質向上を図ることを目的として毎年開催されている。当会は測量競技（セオドライトの部）の最優秀賞の受賞者に対し、岡山県土地改良事業団体連合会会長賞を授与した。

未来へつなごう！ふるさとの水土里子ども絵画展2022 ～県下初の農林水産大臣賞を受賞～

未来へつなごう！ふるさとの水土里子ども絵画展（主催：全国水土里ネット、都道府県水土里ネット）は、農業・農村の素晴らしさと重要性を次世代に引き継いでいくため、絵画を通して子供たちに田んぼや農村に関心を持ってもらうとともに、大人たちへのメッセージとして子供のまなざしを届けることを目的として、全国の小学生以下の児童を対象に2000年から実施している。

今回の絵画展では、全国から約4,000点の応募があり、10月6日～7日に開催された審査会において受賞作品が決定されました。

本県では、4校から27作品の応募があり、最高位である農林水産大臣賞を県下で初めて受賞するなど3点が受賞されました。

岡山県からの入賞、入選作品は次のとおり。

入選（地域団体賞） 「晴れの国 水土里ネット岡山会長賞」



「実りを夢見て」
吉村 陽之助さん（赤磐市立山陽小学校5年）

入賞 「農林水産大臣賞」



「じいちゃんの田んぼ」
安井 真優さん（赤磐市立山陽小学校6年）



東京都美術館での展示の様子

その他の受賞作品

【入選】

工藤 新太さん（岡山市立馬屋下小学校2年）

【佳作】

辻井 翔悟さん（岡山市立馬屋下小学校1年）

米本吏通那さん（美咲町立柵原西小学校4年）

岡山県の土地改良 題字：石井正弘書 第611号 令和5年1月4日発行

発行所 ●岡山県土地改良事業団体連合会 〒700-0824 岡山市北区内山下1丁目3番7号 県土連ビル
☎086-225-0921 fax086-226-0068
総務部 〒703-8292 岡山市中区中納言町1-6 岡山県土地改良会館3F・2F
☎086-207-2200 fax086-207-2202 e-mail:info@okadoren.or.jp http://www.okadoren.or.jp
岡山ため池保全管理サポートセンター 〒703-8292 岡山市中区中納言町1-6 岡山県土地改良会館2F
☎086-207-2324 fax086-272-3937
ため池相談窓口（月、木）☎086-207-2282
事業部 〒703-8292 岡山市中区中納言町1-6 岡山県土地改良会館2F
☎086-273-2110 fax086-272-3937
事業部技術第三課 〒708-0051 津山市椿高下128-1
☎0868-35-2178 fax0868-35-2179

